

◎よい土の条件とは…

野菜を順調に育てるために、土が備えていなければならない条件には次のようなものがあります。

- ① 水はけと通気性に優れていること。
- ② 保水力(水もち)がよいこと。
- ③ 肥料分に富むこと。
- ④ 病原菌や害虫がすくないこと。

第一に、水はけと通気性をよくし、保水力を高めるには、土壌の団粒化を図る必要があります。土には粒の大小があつて、粒のすきまに空気や水を含んでいます。この粒が固まって団粒構造になっている土は、排水がよく、土壌中の酸素量も豊富でしかも保水性がよいという状態です。このような土壌の団粒化を図るためには、堆肥(有機質)の施用が欠かせません。

かんとりスーパー河北潟は、牛ふんとワラを含み、土に通気性を持たすことができ、野菜栽培に向く土の構造(団粒構造)にしてくれます。適度に固まった土の粒が集まり、そのすき間に空気が入ることで、野菜栽培に適したふかふかの常により状態の土になります。また、翌年も畑のしやすい土となります。

◎堆肥(有機物)を使いましょう…

肥料効果を高めるには、まず土を肥やして地力を高めなければいけません。また、堆肥(有機物)を施用しても、期待する割に効果の程があまりはっきりしないと言われます。その原因は、堆肥(有機物)の効果は施用した年において肥料ほどでず、少しずつ現れる点にあります。

ですので、毎年毎年、かんとりスーパー河北潟を土に混ぜることにより、地力がアップしていくこととなり、耕しやすい畑へと変化します。

◎肥料の3要素とは…

特に野菜が必要とするのが、窒素、リン酸、加里です。この3つの肥料を3要素とっていきます。従って、この3要素のうち、どれが不足しても野菜は順調に育ってくれません。この3要素が、それぞれ、必要な分だけ、過不足なく土壌に含まれていることが理想的です。

3要素の中でも、窒素は葉緑素(葉の色)の主成分となるものです。植物の光合成で重要な役割を果たす要素です。窒素は茎・葉を作るうえで、大切な肥料です。

リン酸は果菜類(トマト・きゅうり等)や根菜類(ダイコン・にんじん等)にとって、重要な要素となります。根菜類にとって、特に必要なのが加里です。加里が不足するとサツマイモ・ジャガイモなどでは、その収穫量が違ってきます。加里は、根の発育に影響を与える要素です。基肥・追肥として施すようにしましょう。

かんとりスーパー河北潟に含まれる3要素の割合は、窒素2.6%、リン酸4.5%、加里1.1%となっております。

◎良い畑とは…

湿った土を軽く握り手を開いた時崩れず、軽く触ると崩れる状態の畑土です。このような畑土は、水はけと水もちがよく、有機質に富み有用微生物の多い畑と言えます。